

にしやち 西谷地 b 遺跡第 2 次発掘調査説明会資料

2010年11月13日(土)
財団法人山形県埋蔵文化財センター

調査要項

遺跡名	にしやち 西谷地 b 遺跡
遺跡番号	A 352 (米沢市遺跡番号)
所在地	山形県米沢市大字川井字道下
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査原因	東北中央自動車道(米沢～米沢北間)建設事業
調査面積	12,200 平方m
現地調査	平成 22 年 5 月 13 日～平成 22 年 11 月 30 日
遺跡時代	奈良時代・平安時代・中世
遺跡種別	集落跡
遺構	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・濠跡・土坑・溝跡など
遺物	土師器・須恵器・陶器・青磁・木製品・漆器など
調査担当者	調査課長 阿部明彦 課長補佐 伊藤邦弘 調査研究員 水戸部秀樹(調査主任) 調査研究員 草野潤平 調査員 高木茜 調査員 濱田純
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所 米沢市教育委員会 置賜教育事務所

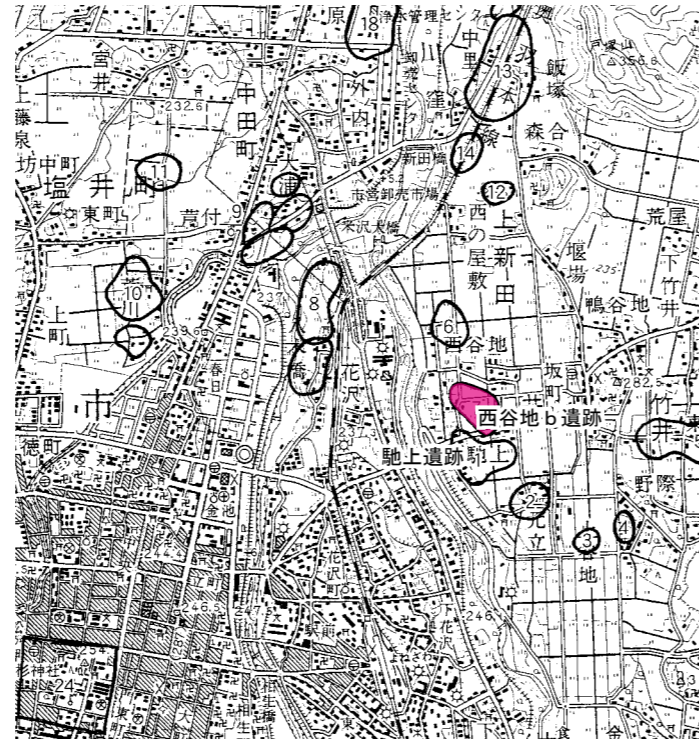


図 1 遺跡位置図 (1:50,000)

1 はじめに

奈良時代、平安時代、中世に営まれた集落遺跡である西谷地 b 遺跡の発掘調査は、昨年度に第 1 次調査、今年度第 2 次調査が行われました。遺跡は、最上川の支流である羽黒川右岸の後背湿地に位置し(図 1)、現在までは水田となっていました。

第 2 次調査では、奈良・平安時代に属する 21 棟の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、川跡などと、中世に属する掘立柱建物跡、溝跡などの遺構が見つかりました。隣接する馳上遺跡でも同様の遺構が見つかり、関連がうかがわれます。第 1 次調査では、中世に属する多数の掘立柱建物跡、炭窯(図 2)、さらにそれらを囲む溝跡が見つかりました。中世の環濠屋敷が一軒丸ごと現われたのです。第 2 次調査で見つかった遺構とどのように関係するのでしょうか。

2 遺構

奈良時代、平安時代の竪穴住居跡(図 3・5)は調査区の南半部分を中心に分布しています。竪穴住居跡にはカマド・煙道(図 4)が付属し往時の暮らしが垣間見れます。中には焼失住居(図 6)もあり、焼け落ちた建築部材・葺き土などが残っていました。掘立柱建物では、2×2 間の総柱建物、2×3 間の総柱建物などが見つかりました。倉庫跡と考えられる総柱建物と比較的多い状況です。柱を立てた穴である柱穴(図 7)は、ほかにも数多く見つかり、さらに多くの建物跡が復元できそうです。

中世に属する柱穴も多数見つかりました。数が多すぎて復元は困難ですが、今後調査資料を元に作業を進めていきます。これらの柱穴は 10 条ほどの溝跡によって区切られています。溝跡は真っ直ぐのもの、直角に折れるもの、曲線を描くものなど様々な様相を見せています(図 10・11)。中からは 16 世紀



図 2 掘る前の炭窯(第 1 次調査)



図 3 竪穴住居跡



図 4 図 3 の竪穴住居跡のカマド



図 5 竪穴住居跡



図 6 焼失した竪穴住居跡



図 7 掘立柱建物跡の柱穴断面



図 8 西谷地 b 遺跡の調査区全景(2009 年度分と 2010 年度分を合成)

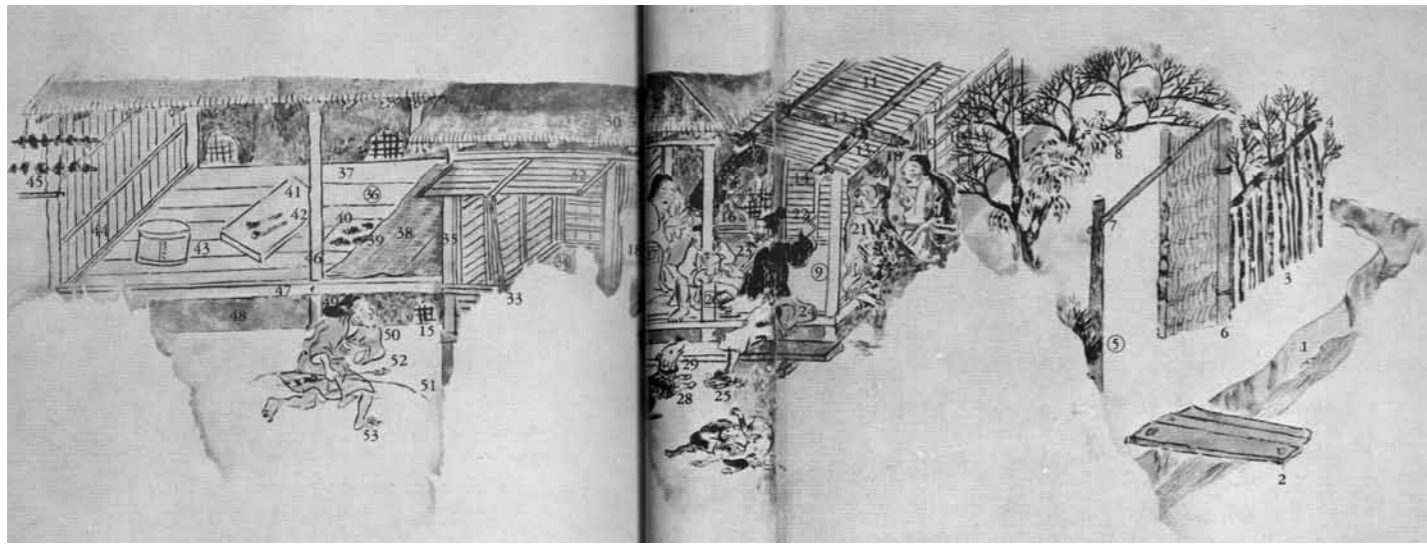


図9 地方豪族の家（『粉河寺縁起』）

の内耳土鍋が出土しており、この時までには埋め戻されたことが分かります。

第1次調査で見つかった環濠屋敷と出土遺物に大きな違いはなく、13・14・16世紀頃の遺構群であると考えられ、鎌倉時代初期に描かれた『粉河寺縁起』に見える地方豪族の家（図9）のような暮らしが営まれていたと想定されます。

3 遺物

現在までの調査でコンテナ（60×44×14cm）約50箱分の遺物が出土しており、竪穴住居跡や川跡から出土した奈良・平安時代の須恵器・土師器が大半を占めます。器の種類には、煮炊き用の甕（図13）や貯蔵用の壺、盛りつけ用の杯（図12）・高杯（図14）などがあり、とくに杯の形態をみると、8世紀から、9世紀まで、100年以上の時期幅が認められます。

中世の屋敷地を区画する堀跡では、16世紀の内耳土鍋（図15）のほか、漆塗りの椀・曲げ物・下駄・折敷など腐朽しやすい木製品（図16）が比較的良好な状態で残されていました。このほか、播鉢、青磁、石臼、石製硯、砥石、銅銭などが出土しています。

4 まとめ

奈良・平安時代では、竪穴住居跡を中心とする集落が存在した時期と、倉庫跡などを中心とした役所に関連した遺構が存在した時期があったようです。隣接する馳上遺跡とほぼ同様の内容となります。中世では、第1次調査と関連する溝跡と柱穴が見つかりました。第1次調査で見つかった環濠屋敷に匹敵する遺構はなく、その南側近辺には同様の屋敷は存在しなかったことが分かりました。溝から出土した内耳土鍋は伊達氏が支配する地域から出土することが多く、本遺跡も伊達氏が支配していた時期に該当します。遺物からは伊達氏より先にこの地域を支配していた長井氏の頃から遺跡が存在していたことが推測されます。中世の屋敷とその周りの土地利用について大きな成果が得られた調査となりました。



図10 中世の溝跡



図11 中世の溝跡



図12 須恵器の杯（奈良・平安時代）



図13 土師器の甕（奈良・平安時代）



図14 土師器の高杯（古墳時代）



図15 中世の土器（上：内耳土鍋，左下：すり鉢，右中・下：青磁）



図16 中世の木製品（上・右：下駄，左：漆椀）